

キャリア教育の推進について

〈課 題〉

これまでの会議で課題として挙げられた「子供たちの職業観、県内の就職・労働状況、求められる人材などの実態把握の必要性」を受けて、令和5年度に実施した「キャリア教育の推進等に係る調査研究事業」におけるアンケート調査結果から読み取れる新たな課題

○高校卒業段階までに、全ての子供たちに十分なキャリア意識を育てているとはいえない

- ・中高生ともに、キャリア教育で育成を目指す「基礎的・汎用的能力」の「キャリアプランニング能力」に関する項目の自己認識に課題がある。

『将来働くことの意味について考えている』中学生 36.8% 高校生 23.3%

- ・高校生が、現在、在学している高校の学科を選んだ理由として、将来の職業を見通した進路選択の理由が少ない。

『自分の学力に合っていたから』61.5%

『将来の職業に役立つ知識・技能や資格が得られそうだったから』11.8%

『将来の目標を見つけられそうだったから』13.1%

- ・高校生が上級学校（学科）への進学を希望する理由として、目的意識を持った回答が最も多くなっている一方で、学習意欲や主体性が欠ける回答も一定数ある。

『自分の興味・関心に合ったことを勉強したいから』73.4%

『学生生活を楽しみたいから』14.6% 『保護者や家族がすすめるから』9.2%

○産業界が求める人材を十分に育成できていない可能性がある

- ・生徒・学校側と企業側で仕事をするまでに身に付けるべき力の認識についてはギャップが少ない。

「仕事をするまでに身に付けておきたい／身に付けてほしい力」

高校生、大学生、県内企業、県内中高教員の全対象：『コミュニケーション能力』、『一般常識』、

『状況の変化に柔軟に対応する能力』を上位5位までに挙げている。

※ギャップは少ないものの、それらの力を十分に育成できているかという点については、キャリア意識の育成と密接な関連があるため、課題があると言える。

- ・企業が挙げた新卒採用に当たっての課題として、『求めるレベルの人材が採用できない』などの回答が一定数を占めている。

「新卒高卒者の採用に当たっての課題」

『求めるレベルの人材が採用できない』19.9% 『求める人材が学校から推薦されない』19.7%

「新卒大卒者等の採用に当たっての課題」

『求めるレベルの人材が採用できない』30.4%

《施策の方向性》

- 【企業との接触機会の充実と職業理解の充実】
インターンシップをはじめとした企業との接触機会の充実と職業や産業の理解を深める取組の促進
- 【自己理解に基づいた目的意識と社会で必要とされる資質能力の育成】
自己の適性を認識し、主体的にキャリアプランニングを図る力や、課題対応能力、人間関係形成能力の育成
- 【教員の質の向上】
時代に即した実践的な進路指導、産業と雇用の動向等についての教員研修等の充実

《これまでの会議での主なご意見》

- 理系人材が求められていると言われているが、むしろ文系にシフトしている。労働実態を踏まえた教育の見直しが求められると思う。
- 働くことが本当に楽しいということの教育が重要。
- 先生方の専門性を生かし、商工部門の知恵ももらいながら教材研究をして教育活動の充実がなされることが重要。
- 特別な能力を伸ばすところに視線を向けることが大事。
- 早期離職や労働市場とのミスマッチに関する調査は、まずは早期離職者から実施するなど段階を経てはどうか。
- 子供たちがなぜ自分は働くのかということを確認しながら育っていく、その仕掛けが非常に重要。
- 学校教育の場、その携わる教員を含めたスタッフの多様性をどのように維持していくのか。研修や、体験機会をどのように作っていくのか。
- 高校の進路指導の先生の意識改革、それぞれの生徒の個性に応じた的確な進路指導をお願いしたい。
- 本気でキャリア教育を進めていくなれば、労働と対価を肌身で感じられる機会も守っていかなくてはいけない。

1 令和5年度実績

【実態把握】

(1) キャリア教育の推進等に係る調査研究事業

高校卒業者の就職率低迷や早期離職率の高さ等の問題の原因分析を行い、今後のキャリア教育に係る政策形成上の参考とするため、中高生、大学生、社会人を対象とした職業意識に関する調査や、企業を対象とした高校生の雇用等についての調査を、株式会社ちばぎん総合研究所に委託して実施

有識者により構成された「キャリア教育調査研究推進協議会」を4回開催し、調査内容や分析方法、今後求められる施策案等について協議

- ・キャリアプランニング能力の更なる向上を目的とした取組の必要性や、実社会との連携強化、教員研修の重要性などについて意見が出された

【企業との接触機会の充実と職業理解の充実／

自己理解に基づいた目的意識と社会で求められる力の育成】

(2) ジョブカフェちば事業

若年者の正社員としての就労支援や、若年者と企業との交流イベントを通じたミスマッチの解消、若手人材の採用・定着を図るための事業を実施

- ・県立高校にて生徒向けセミナー等を30回実施（19校、延べ1,217名参加）
- ・県立の工業系高校と企業との交流イベントを2回実施
（京葉工業高校1回・市川工業高校1回、参加企業延べ26社）

(3) 中小企業人材採用・魅力発信サポート事業

千葉県商工会議所連合会が行う企業と教育機関との交流事業の支援や人材採用・定着に向けた研修を支援し、学生の就職・地元定着を図るための事業を実施

- ・高校進路担当と企業採用担当の交流会（就職情報交換会）を開催
（参加高校23校、参加企業70社）
- ・企業担当者が生徒の前で自社プレゼンを行う企業の魅力発表会を2回実施
（参加高校2校、参加企業延べ10社）

(4) ワークルール講座

実際の就労に役立つ労働法の基礎知識を学ぶ機会を提供するため、社会保険労務士によるワークルール講座を県立高校12校で実施（1,300名参加）

(5) 若年者への職業訓練の実施

各高等技術専門校において、中学や高校の新卒者の受入れを行い、就労に向けた技能の習得を支援（254名入校、うち中学卒業生3名、高校卒業生115名）

(6) 未来の名工チャレンジ事業

各高等技術専門校において、若年者のものづくり分野への進路選択・職業選択のきっかけづくりを目的として、小・中・高校生を対象とした体験会を実施

（65コース、226名参加 うち小学生64名、中学生17名、高校生122名）

(7) ものづくりマイスター事業

厚生労働省が認定した、高度な技能と実務経験を有し技能の指導ができる「ものづくりマイスター」を活用し、工業系高校での実技指導を実施
(派遣数 15 校、約 1,800 名参加)

(8) 千葉県介護職の理解促進・魅力発信事業

児童生徒や保護者に対し、給与等の処遇やキャリアプランを含めた介護職の理解促進を図るため、教材を用いた模擬授業の実施、教材を保護者・教員に周知

(9) 課題探究型キャリア教育ゼミの実施

地域課題の解決について探究するゼミを設置し、生徒が自己の役割・特性を理解しながら主体的に課題解決を図る能力の育成を目指した。専門学科を拠点校として、地域の複数の高校がグループを形成し、それぞれの専門性を生かして地域や社会の課題解決に取り組んだ。令和5年度は県内3グループにおいて、それぞれ外部講師による講義や助言を受けるゼミを実施し、令和6年2月5日(月)に成果発表会を開催した。

※活動例：千葉商業高校、犢橋高校、成田西陵高校による「新商品開発を通じた地域貢献、食育活動」では、山崎製パン株式会社の協力により、製品開発を通じてマーケティング等を学び、その成果として新商品(ランチパック「チーバカレー」、他)を開発、県内スーパー等で販売した。

(10) 職業理解のための映像教材作成

実社会で働く人のインタビュー動画や職業に関する情報等を、中・高校生が、産業や職業についての理解を深め、職業意識の形成や主体的な進路選択に役立てることを目的に制作した動画教材を、YouTube「千葉県公式PRチャンネル」に公開するとともに、授業での活用例やワークシート例を県教育委員会のホームページに掲載し、教員向けの各研修や学校訪問等で周知することで活用を推進した。

(11) キャリアデザイン講演会の実施

起業家やIT分野など新規発展を遂げている分野の著名人による講演を実施。令和4年度の講演内容は、映像を県内高校生に限定公開中。

(12) 高校生の就職支援

高校生の主体的な職業選択及び円滑な就職に資する、生徒対象の講演会や教員対象の研修会、インターンシップ保険費の補助や、インターンシップ等の受入れを行う事業所に係る情報提供を実施(指定31校33課程)

※職場体験(中学生)、インターンシップ(高校生)の実施率

R4年度実績 公立中学校 29.9% 公立高校(全日制) 58.9%

→ 新型コロナウイルスの影響で減少した実施率も、徐々に回復傾向がみられる。

(13) 普通科高校におけるキャリア教育実践プログラム研究事業

普通科高校の生徒のキャリア意識を醸成し、目的意識をもった進路選択や学習への取組につなげるため、キャリアプランニングの考え方や自己分析等を通して、社会人基礎力をバランスよく育成するための実践的なプログラムを実施した。実施前後のテスト結果からは、生徒のキャリア意識の高まりなどの効果が見られた。

(14) 専門高校の生徒や教員による体験授業の実施

専門学科や特色あるコースを設置する県立高校の教員及び生徒が、近隣の小・中学校の児童生徒等に対して、専門学科等の学びを教える体験授業等や広報活動を実施（実施校 73 校）

- ※実施例 ・工業科：悪路を走破するレスキューロボットの製作授業
- ・家政科：イオンモールでのファッションショー開催

【教職員の資質向上】**(15) キャリア教育の手引きの改訂**

小・中・高校における系統的なキャリア教育の実践に役立てるため、発達段階に応じたねらいや各教科における実践事例等を示すなどして、キャリア教育のポイントを理解しやすくまとめた資料「キャリア教育の手引き（改訂版）」を、県ホームページで公開。小・中・高校での実践的な活用が進むよう周知、指導した。

(16) キャリア教育教員研修の実施

教員が新しい時代に必要なキャリア教育について理解を深めるとともに、実践的なキャリア教育の指導力を身に付けるため、有識者等による研修を実施した。

【その他】**(17) 高等技術専門校の機能強化に向けた広報事業**

高等技術専門校の入校促進のため、ホームページのリニューアル、工業系高校との連携による共同パンフレットの作成・配布など、情報発信を強化

2 令和6年度新規・拡充事業**【企業との接触機会の充実と職業理解の充実】****自己理解に基づいた目的意識と社会で求められる力の育成****(1) 中小企業の人材確保に向けた仕事体験促進事業【新規】**

中小企業等の人材確保と若者の職場定着を促進するため、企業の魅力を広く知ってもらうための仕事体験ツアーを大学生や高校生等を対象に実施

(2) 中高生対象キャリア教育実践プログラム研究事業

中学生・高校生のキャリア意識を醸成し、目的意識をもった進路選択や学習への取組につなげるため、キャリアプランニングの考え方を学ぶとともに、自己理解を深めることで、自分の能力を生かしながら将来の進路を切り拓く力を育成するための実践的なプログラムを実施する。

(3) 職業理解のための映像教材作成

令和4年度に、「職業編」8本、「学科編」4本の動画を制作した。さらに動画の本数を増やすことで、学校現場で活用する際に、生徒が自分の興味関心のある動画を選択して視聴することができるようにする。内容は令和4年度に制作した業種・学校とは異なるもので制作する。

(4) 中学校教員対象 専門学科（高校）の視察研修【新規】

中学校の教員に、県立高校の専門学科ではどのような学びを実践しているのかを、実際の授業の様子等を見学してもらうことで、専門学科への進学に関する見識を深めさせる。